

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370700472		
法人名	コンフォート有限会社		
事業所名	グループホーム楽々園		
所在地	岡山県井原市大江町4505-5		
自己評価作成日	平成31年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成31年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的環境の中、洗濯物を干したり、畳んだり、お盆拭きをして頂いたり、出来ることは手伝っていただく事で役割意識を持っていただけるようにしています。四季折々の行事を計画し、楽しく季節感を感じられるように外出を工夫し、地域の行事にも積極的に参加しています。職員は、入居者お一人お一人の言葉を引き出す為にゆったりと話しかけるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな環境にあり、一年を通して四季折々の営みに合わせた生活を家族の延長の如く支援しています。入居者も高齢になっていく中、介護者としての意識改革に取り組み、より質の高いサービスの向上に取り組んでいる様子が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、安心して生活できるように理念に基づいた介護をしている。	理念を具体化して、職員と共有しながら実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方に、通勤途中、散歩途中で出会った時には、あいさつを行っている。地域の行事に参加したり、近所の方から野菜を頂くなどの交流がある。	地域にある同業者とも交流し相互協力の下、また、地域の一員として交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を通して、地域の方に認知症についての理解や介護についてお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族に参加を呼びかけ民生委員、町内会長、市の介護保険課の方に出席して頂き、施設での取り組み現状を説明し、ご意見アドバイスを頂きながら改善している。	2ヶ月に1回、出席者から季節に応じた話題(インフルエンザ・熱中症対策など)を提供してもらいながら、サービスの向上に努めています。	入居者家族の会議への参加を促す為、堅苦しくならないようまた、地域の方々にも興味を持って貰える企画にし、運営推進会議を地域に開けた会議にしていられることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事は、介護保険課に相談し教えて頂き介護事業者連絡協議会に出席し、運営推進会議にも出席して頂いている。	運営推進会議を通し、季節ごとの注意点を受け(インフルエンザ・熱中症対策など)顔見知りになり協力関係を築くように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止についての勉強会を繰り返し実施し意識の向上を図っている。	問題行動がある場合も、ご家族は遠慮して厳しく対処して欲しいと言われるが、職員はなぜ問題行動になるのかを検討して、身体拘束しないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、社内研修、職員トイレに虐待についての資料を貼るなど、意識を高めるよう図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている利用者がいないため意識が低いと思われる。勉強会を開く必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約を行う際、丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時職員がお話を伺うようにし、ご意見箱を設置している。ご本人にも要望は日々お聞きしている。	家族の面会はさまざまで、来所の際は個人情報に気を配りながら、適切な対応を心掛け、意見や要望を聞き反映に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議前に意見を持ち寄って貰い、そこで意見を聞き、話合っている。	職員は入居者の生活する上での改善点を提案し、運営の反映に努めています。また、代表者は職員が意見を出しやすいように、親睦会を企画するなど職場環境にも配慮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞きながら、出来ることは積極的に改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を積極的に行っており、社外研修についても研修の案内を提示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	井原市介護サービス事業者連絡協議会他研修等で、他の事業者と連携を取り情報収集を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談し、ご本人の困っている事、思い、要望を聴きだし、職員で共有する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談し、ご家族の困っている事、思い、要望、入所に際しての心配事や不安に思っておられる事を聴きだし、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の思いを計画に入れ、説明して同意を頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人にも洗濯物を干したり、畳んだり、お盆拭き等出来る事をして頂きながら、協力して頂き感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に現状を説明し、ご協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加する事や、近くの協力医院の受診時など、知人に声をかけられ会話したり、面会に来られたご家族や友人、近所の方などと居室でゆっくりと話して頂ける様な環境を作っている。	家族の話から古い生活の思い出や昔の仕事などから馴染みの環境での暮らしを支援に活かす様取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの会話、レクリエーション、外出により親しい関係が出来るように図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、施設外でお会いする事があれば挨拶し、相談事があれば相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報や本人との会話により、希望や意向を引き出しニーズに取り入れている。	普段、言葉数の少ない入居者は、入浴時など1対1で会話ができるのが好機と捉え、会話を促すなど工夫をしながら、思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人やご家族との面談、それまでの担当ケアマネ、入院中であれば病院から情報を入手し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントをしっかり行い計画を立て、カンファレンスによりモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。	介護計画に沿ったケアの大切さを職員に伝えながら、ケアマネージャーが本人、家族、職員など関係者からの情報を参考に、現状に即した介護計画の作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を作成し、申し送り時に申し送りをしている。モニタリング時にも介護記録を活用して、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活の中で、突発的なニーズが生じる事があり、その都度柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで地域の行事の情報を頂き、参加出来るような行事には参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人個人が必要とされるかかりつけ医を家族と相談し受診し、協力病院の医師には毎月往診して頂いている。	毎月の往診とかかりつけ医の受診、専門医の受診など家族との協力も得ながら受診の支援に取り組んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいない為、協力病院やそれぞれのかかりつけ医の看護師に相談し、アドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院には同行し、医師や看護師から説明を受けその後利用者の情報を伝え、随時連絡を取り、訪院するなどして、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時の説明の中に看取りケアは行っていない事を説明し、終末期にはどのような対応を望まれているか意向を伺っている。	看護職員の人材獲得が難しい地域という事もあり、入居時アンケートで終末期における家族の思いを確認し、事業所で出来る支援を伝えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアルを作成して共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2度消防訓練、水害もしくは地震訓練をおこなっている。	昼・夜を想定した避難訓練を行っており、地域としての防災にも関心を持って取り組んでいます。	ハザードマップによる水害などの危険度は薄いので、大きな地震に備え消防署と地域を交えて訓練されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉による虐待もある事や親しくなり過ぎる事による人格を尊重していない言葉掛けをしないように、注意し合っている。	職員は入居者に失礼になっていないか、自分に置き換えて考えるように努めています。また、職員の会話で言葉足らずな部分があると、別の職員がフォローしている姿が窺えました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で希望や思いを汲み取り、会話する時に自己決定出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりで過ごし方は違いますが、希望が表現出来ない場合はこちらからいろいろ提供してみる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の要望に合わせて服を選んで頂くが、要望が無い人には職員が選んでおり、入浴時に着換えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に会話をしながら食事をし、片付けもお盆拭き等を手伝ってもらっている。	四季折々の食材で、一人ひとりの嚥下機能を考慮した食事形態にして、食事ができるように配慮しています。また、誕生会などは特別食を作ってお祝いしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は3食毎に記録し、その人に合った形態で提供している。トロミ等も使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、義歯洗浄を自力もしくは介助により行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンが異なる為、トイレ誘導、オムツや紙パンツの使用、日中と夜間の違いなどにより、異なった対応をしている。	「なぜ、排泄の自立が妨げられているのか」アセスメントをし、職員で共有しながら支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により不穏状態になる場合も考えられる為、水分摂取を促し、繊維質の食品を多く摂る等の対応をし、排便状態を確認記録しているが、必要に応じ処方された下剤を服用する場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応順番を決めておが、ご本人の希望に応じ中止や変更を行う場合もある。	本人の体調や意向に添った入浴支援に努めています。また、一人ひとりとゆっくり会話する絶好の機会と捉え、話を引き出しながら楽しい入浴になる様努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望により休息したり、テーブルに伏して傾眠されているが、夜間よく眠られるように、昼寝をしないといわれる片もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医処方の薬を決まっている通りに服薬出来る様介助している。状態の変化は良い悪いにつけ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で洗濯干し、たたみ、お盆拭き、お絞りをたたむなど出来る役割を行ってもらっている。気分転換も兼ねて季節毎のお出かけや、手作業等も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の外出、初詣、お雛様見学、お花見、ひまわり、コスモス、彼岸花見学、案山子祭り、秋祭り、紅葉等、地域の人や、家族からの情報を頂いて行っている。	季節感が希薄になりがちなので、季節ごとの外出は大切にしています。また、日常支援には洗濯物を干したりして外気に触れる機会を設けるなど、気分転換を図っています。	季節ごとの外出は、家族と入居者との思い出が共有出来る機会と捉え、家族に声を掛け、協力しながら一緒に出かけられるよう工夫されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持って買い物をする事は無く、所持金は家族に渡している。無くなったり、トラブルになる事がある為。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望なら電話のやり取りは行すが、難聴の方が殆どであり困難である。字を書くことも出来ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の貼り絵や壁面作りを行っており、刺激的なものは何も無い。	本人の自宅での過ごし方や部屋のレイアウトによって、誤認や錯覚を引き起こさないよう安全に配慮し、季節感を採り入れるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席を気の合った人同士で隣り合わせに座れるようにしてあり、ソファーやテレビの前に座る事が出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者それぞれがご家族との話し合いでお好きなように配置しておられるが、馴染みの物やお好みの物を持参される様に話している。	どの部屋にも窓があり、のどかな景色が楽しめます。安全で居心地良い居室になるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺やトイレの表示により安全や自立に配慮した内部になっている。		